

一卷頭エッセイ

地質調査所と国際協力

笹田 政 克¹⁾

世界の国々にはそれぞれ地質調査所あるいはそれに相当する機関がある。その基本的役割は、鉱物・エネルギー資源、国土利用、地質災害・環境保全、それに水資源についての地球科学的情報を社会に提供することにあるが、重点の置かれている分野はそれぞれの国の置かれている状況により異なっている。

例えば、地震火山等の災害が多い我が国では、地質調査所における地質災害分野の仕事の比率が高くなっているが、発展途上国では全般に資源の比率が高く、またアフリカ諸国では水資源にプライオリティが高いところが多い。

それぞれの地質調査所から提供されるデータの質及び提供形態も様々であり、より質の高い情報を社会に提供できるように基礎的研究が行われているところがある一方で、社会からの要請に対して手持ちの技術で応えることに追われているところがあるのも現実である。

このように各国の地質調査所は様々な姿で活動しているが、これらの機関の間での国際協力もまた活発に行われ、それぞれの研究レベル・技術力の向上に役立っている。国際協力は二国間、あるいは国際機関を介しての多国間と様々な形で展開されているが、いずれもその準備、調整にはかなりの時間が費やされることが多い。技術移転を伴うようなプロジェクトの企画にあたり肝要なことは、途上国側からの要請と協力国側の協力体制のマッチングにあることは言うまでもないが、もう一つ大切と思われることを挙げると、それは国際社会に見られる大きな流れを把握しておくことではないかと思う。

現在の世界では、地球環境への関心が増大しており、豊かさを失わないために発展途上国において

も、開発に伴う環境保全及び自然災害の軽減に高い関心がある。

また、コンピュータ利用技術の普及も世界的な流れである。高性能なパソコンの普及および最近の情報技術に着目すると、数値化技術やGISの利用などはまさに時代の寵児的な振る舞いをしており、対象が資源であれ、自然災害であれ、水であれ、一気に世界の地球科学的情報の提供形態を塗り替えてしまわんばかりの勢いが感じられる。

このような流れを汲み取る中で、魅力ある国際協力のプロジェクトが作られていくものと思われる。そして社会に提供する地球科学的情報の質の向上が図られれば、プロジェクトは望ましい結果をもたらすはずである。

最後に、諸外国の地質調査所に見られるもう一つの流れに触れてみたい。唐突に聞こえるかもしれないが、それは所謂行革・リストラである。各国の地質調査所はその社会的使命に照らし合わせ、それぞれが変貌を遂げてきており、その中で国際協力プロジェクトの実施・契約形態は、国により異なってきている。我が国の場合、発展途上国との間の国際協力はODA資金に大きく依存しているが、組織の見直しが行われた西欧諸国の地質調査所の国際プロジェクトについて見ると、相手国の経済状況にもよるが、必要経費を現地で調達しているケースが多い。そこではマーケティングが行われ、効率性が追求される場合もある。このようなプロジェクトの進め方には議論があるところだと思う。

国際プロジェクトは多様な側面をもっているが、いずれにしても、それぞれの国の地質調査所の基本的役割を踏まえて、今後とも魅力ある国際協力を進めて行きたいものである。

1) 地質調査所 国際協力室

キーワード: 国際協力プロジェクト, 地球環境, 情報技術, リストラ